

IDNo.	号数	年月	著者	題目	ページ	備考
498	199	S63. 5	川越重昌	仙台藩内銃砲及火薬史覚え書(26)	21~50	
499	199	S63. 5	山田太郎	「海軍造兵史資料」機関砲採用始末(続)	51~72	
500	200	S63. 6	所 荘吉	砲術諸流派の調査 その5	01~32	
501	200	S63. 6	粕谷利一	荘内藩塩硝蔵通史 特にその初期塩硝(火薬)事情について(前編)	33~63	
502	201	S63. 7	川越重昌	品川台場火薬庫及び収納法の復元(下)	01~25	
503	201	S63. 7	粕谷利一	荘内藩塩硝蔵通史 特にその初期塩硝(火薬)事情について(後編)	26~59	
504	202	S63. 9	所 荘吉	砲術諸流派の調査 その6	01~43	
505	202	S63. 9	川越重昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書(27)	44~66	
506	202	S63. 9	山田太郎	「海軍造兵史資料」機関砲採用始末(続)	67~84	
507	203	S63. 10	斎藤利生	靖国神社の百五十封度砲と薩摩藩の造砲	01~14	
508	203	S63. 10	川越重昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書(28)	15~44	
509	204	S63. 11	所 荘吉	砲術諸流派の調査 その7	01~31	
510	204	S63. 11	川越重昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書(29)	32~54	
511	204	S63. 11	岡田登	中国における爆竹の使用と黒色火薬	55~75	
512	205	S63. 12	川越重昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書(30)	01~24	
513	205	S63. 12	岡田登	中国の唐代、五代・十国時代に兵器として使われた火器	25~52	
514	206	H01. 2	所 荘吉	砲術諸流派の調査 最終回	01~41	
515	206	H01. 2	川越重昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書(31)	42~71	
516	206	H01. 2	山田太郎	「海軍造兵史資料」機関砲採用始末(続)	72~85	
517	207	H01. 3	斎藤利生	佐賀藩の長崎警備と百五十封度砲	01~20	
518	207	H01. 3	川越重昌	花巻周辺に於ける幕末硝石採取製造業の復元(5)	21~152	
519	208	H01. 4	所 荘吉	日本銃砲史(5)	01~14	
520	208	H01. 4	川越重昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書(32)	15~26	
521	209	H01. 5	所 荘吉	日本銃砲史(6)	01~13	
522	209	H01. 5	川越重昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書(33)	14~25	
523	209	H01. 5	山田太郎	「海軍造兵史資料」機関砲採用始末(最終回)	26~34	
524	210	H01. 6	所 荘吉	ペルリのもたらせる小火器に就いて	01~16	
525	210	H01. 6	川越重昌	鹿児島市谷山作硝場(1) 薩摩火薬史跡実踏記(13)	17~37	
526	210	H01. 6	山田太郎	「海軍造兵史資料」 仮呉兵器製造所設立経過	38~55	
527	211	H01. 7	川越重昌	鹿児島市谷山作硝場(2) 薩摩火薬史跡実踏記(14)	01~27	
528	211	H01. 7	所 荘吉	古式銃砲の鑑定基準	28~36	
529	211	H01. 7	山田太郎	「海軍造兵史資料」 仮呉兵器製造所設立経過(続)	37~52	
530	212	H01. 9	川越重昌	鹿児島市谷山作硝場(3) 薩摩火薬史跡実踏記(15)	01~33	
531	212	H01. 9	池田浩理	アーミー、リボルバー(32口径Smith&WessonモデルNo.2)について	34~39	
532	213	H01. 10	川越重昌	鹿児島市谷山作硝場(4) 薩摩火薬史跡実踏記(16)	01~23	
533	213	H01. 10	山田太郎	「海軍造兵史資料」 仮呉兵器製造所設立経過(続)	24~42	
534	213	H01. 10	池田浩理	ミントウ銃器会社に於ける実包製造の系譜	43~50	
535	214	H01. 11	川越重昌	硝石製造法図解(1) 山田森重「生硝一日四籠煎煉法」の場合(上)	01~19	
536	214	H01. 11	山田太郎	「海軍造兵史資料」 仮呉兵器製造所設立経過(続)	20~41	
537	215	H01. 12	中原正二	陸軍岩鼻火薬製造所(その1)	01~15	
538	215	H01. 12	川越重昌	硝石製造法図解(1) 山田森重「生硝一日四籠煎煉法」の場合(下)	16~44	